

ふるさとの歴史 ②

稲をつくりはじめた人たち



【図書館に保存してある弥生式時代の土器】

このへんに人が住むようになったのは、いまから1万2000年くらい前だといわれていますがおよそ2000年前（弥生式時代）になると稲をつくって食物にすることをおぼえました。また、石の道具や土器しか知らなかった人たちは、だんだん鉄や銅の道具を使うようになりました。そのころの人たちが住んでいた跡が船津、宇東川、沖田など20カ所ほどあります。

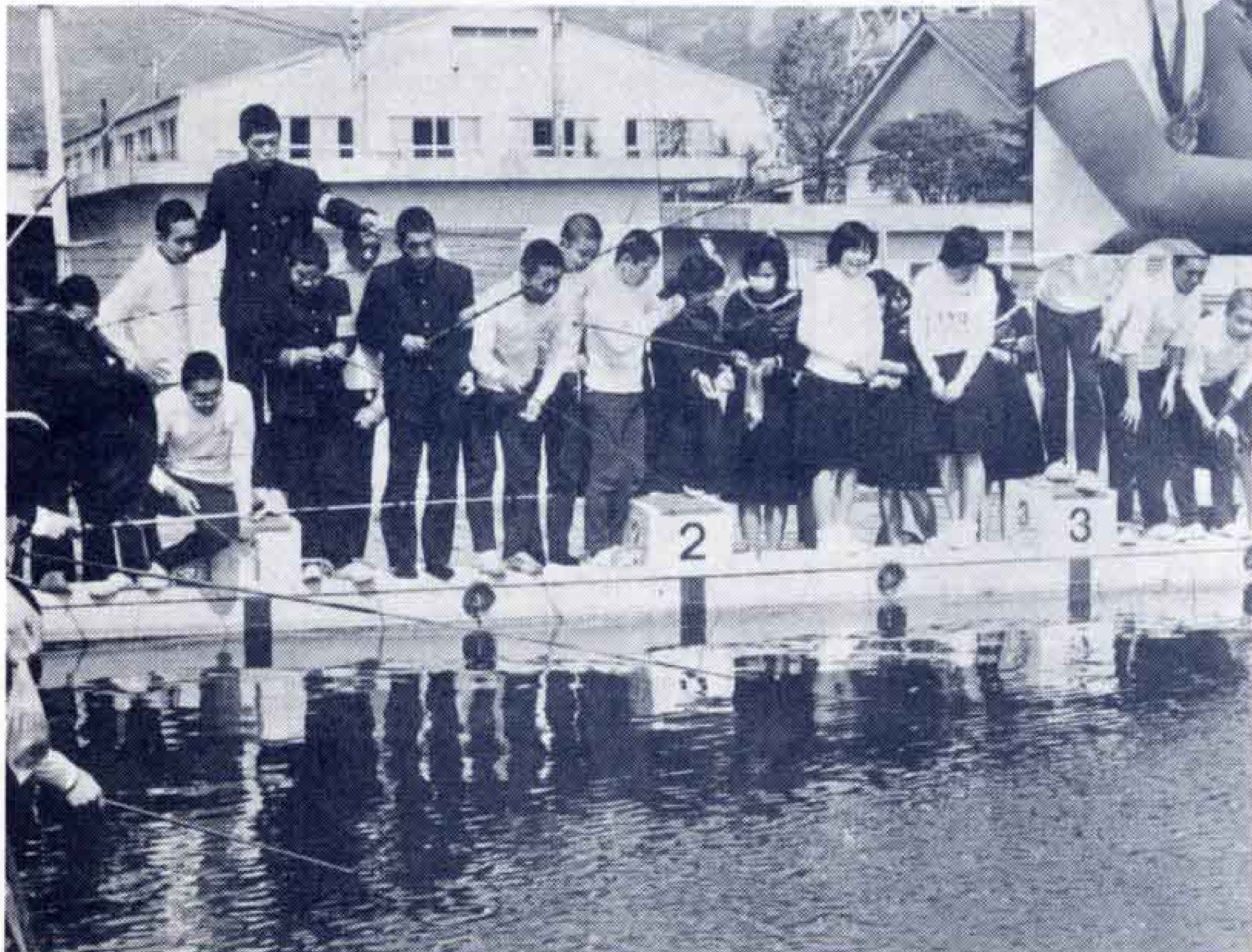
このころになるとひとつの部

落もだんだん大きくなって、共同で生活を営むようになります。その部落の中には力の強い長が出てきます。

前号から富士市の歴史をのせていますが、これからふるさとシリーズとして歴史をはじめ史蹟、伝説などをのせていきます。みんな、のせてほしいものがありましたら、市役所広報広聴課までご連絡ください。

つり大会で卒業生を送る

中学生生活最後の思い出にしてもらおうと、須津中学校では3月18日、卒業生を送るお別れつり大会を学校のプールで行いました。プールには昨年10月錦ゴイ2000匹を放し、給食のパンなどで育て、平均10疰、中には20疰以上もある大物がいます。大会は、卒業生141人がはじめにつり、その後で1・2年生。みんな魚がつれるたびに歓声をあげ、またたくまにバケツいっぱいになるほど、楽しいお別れつり大会でした。



楽しかった卒業生を送る会

みんなの学校では、卒業生を送る会でどんなことをやったかな。

丘小学校のお友だちは、卒業生に歌や紙ペンダント、寸劇などのプレゼントをしました。また、卒業生からは歌のおかえしと、移植の竹へらを下級生全員に贈りました。